

生産性向上の支援について

長野県飯田市にある企業様の生産性向上支援についてご紹介します。

事業主：株式会社天龍（長野県飯田市）

機構：お名前、事業内容を教えてください。

事業主：株式会社天龍

専務取締役 塩澤です。

釣竿を中心にゴルフシャフト、汎用長尺パイプ等を製造しています。



専務取締役
塩澤卓哉 様



総務（訓練事務局）
石井秀和 様

事業主様からは「製造におけるQCD（Quality（品質）、Cost（コスト）、Delivery（納期））の重要性や生産性向上・業務改善等の必要性についての知識の定着させ、作業や改善活動に取り組みたい」との要望がありました。

機構からは「グループワークで他者や他部署の意見を聞くことで縦横へつながり、視野を広げられ、自分の業務における改善活動のきっかけになるのではないかと提案いたしました。

（塩澤：塩澤卓哉様、機構：ポリテクセンター）

機構：貴社にはどのような課題がありましたか？

塩澤：私たちは釣竿を中心にゴルフシャフト、汎用長尺パイプ等を製造していますので、昔ながらの職人的な工程が多く、また小ロット多品種の製造となっております。各工程における課題は多くありますが、それを改善するためには一人一人が日々の作業に「気づき・見直し・より良くする心構え」を根付かせる必要があります。弊社にはその土台となるものがありませんでしたので、社員教育を通して時間をかけて創っていく事が重要と考えます。

機構：訓練を知ったきっかけは何ですか？

塩澤：以前より商工会議所等で開催しているオープンコースへ参加をしまして、生産性向上支援訓練の有効性を感じていました。

機構：訓練を利用していかがでしたか？

塩澤：コロナ禍であり、社員を外部講習に参加させたくても感染症対策のため参加させていませんでしたが、社内での講習という事で安心して受講することができました。また、全員が同じ研修を行うことで社内における共通の認識が生まれ、今抱えている課題などに対してどのように取り組んでいくのがよいか知ることができました。

機構：訓練を利用して特に良かった点を教えてください。

塩澤：グループワークを取り入れて頂き、他部署とのグループを組みましたが、参加者一人一人が活発に意見を出している姿がとても印象的でした。生産活動や改善提案活動の中でじわりじわりと活かしてもらうことを期待しています。

機構：訓練の内容はどのように活用されていますか？

塩澤：「ものづくりの仕事のしくみと生産性向上」については、若手社員向けで行い、研修内容を業務の中で活かす点と、モチベーションアップという意味合いで活用しています。「生産計画と工程管理」については、現場長～現場長候補が受講し、現場長間での共通の認識を形成するために活用しています。

機構：訓練を利用して、職場や受講者に変化はありましたか？

塩澤：見違えるような変化はありませんが、訓練を継続していくことで職場内に共通の意識ができ、一人の変化でなく全体の変化となっていくと思います。

機構：今後どのように訓練を活用していきたいですか？

塩澤：まずは、この2つの訓練を今回受講していない社員にも受講させて、視野を広げてもらおうと考えています。

ものづくりの仕事の仕組みと生産性向上 訓練実施結果		
アンケート結果 (○コース)	満足度・生産性向上度 (課題解決度)	主な意見(抜粋)
受講者アンケート	①大変役に立った	44%
	②役に立った	56%
	③役に立たなかった	
	④全く役に立たなかった	
事業主アンケート	①大いにつながった	100%
	②多少つながった	
	③あまりつながらなかった	
	④全くつながらなかった	

生産計画と工程管理 訓練実施結果		
アンケート結果 (○コース)	満足度・生産性向上度 (課題解決度)	主な意見(抜粋)
受講者アンケート	①大変役に立った	33%
	②役に立った	67%
	③役に立たなかった	
	④全く役に立たなかった	
事業主アンケート	①大いにつながった	100%
	②多少つながった	
	③あまりつながらなかった	
	④全くつながらなかった	

受講コース：ものづくりの仕事のしくみと生産性向上

(松田：松田一輝様、機構：ポリテクセンター)
機構：業務の中で課題と感じていることはありますか。
松田：受け持っている仕事の質を上げることです。



松田一輝です
釣具事業部で釣竿塗装を
担当しています

機構：訓練を受講した感想を教えてください。
松田：普段、自分たちの行っている業務が会社の中でどのような役割を果たしているのか、改めて知ることができました。
機構：訓練で特に良かった点を教えてください。
松田：訓練内でグループワークがあり、普段話すことのなかった他部署の人と意見を交換する中で、自分とは違う意見があり、人の話を聞くことで違った視点を持つことができたことです。
機構：訓練で学んだことは仕事にどのように活かされていますか？
松田：今までなんとなく業務をしている感覚がありましたが、会社の中での自分の業務の役割がわかり、今まで以上に責任を持って業務に取り組むようになりました。

機構：今後の抱負についてお聞かせください。
松田：仕事に関わる訓練がまだまだたくさんあると知り、様々なことを吸収して成長していきたいと考えています。

受講コース：生産計画と工程管理

(川口：川口将和様、機構：ポリテクセンター)

川口将和です
釣具事業部で釣竿組立を
担当しています



機構：業務の中で課題と感じていることはありますか。
川口：技術的な面で工程内の皆が同じレベルになるように指導する点です。
機構：訓練を受講した感想を教えてください。
川口：今まであまり意識することがなかったことまで細かく知ることが出来て、大変勉強になりました。
機構：訓練で特に良かった点を教えてください。
川口：人とのコミュニケーションの取り方がとても参考になりました。
機構：訓練で学んだことは仕事にどのように活かされていますか？
川口：部下への指示出しや仕事の説明をするときに、訓練で学んだことを意識して活用しています。

機構：今後の抱負についてお聞かせください。
川口：人員に対して仕事量が増加している中、1人1人の負担を軽減し、いかに円滑に仕事を回せるかという大きな課題を少しずつ改善していくことです。

機構：みな様、お忙しい中、ご対応いただき、ありがとうございました。

事業主紹介

株式会社 天龍

TENRYU®

長野県飯田市で釣竿作りを創めて、60年となります。天然素材である竹を使った『六角竿』からはじまり、10,000種を超える釣竿を世に送り出してきました。国内のアングラードだけでなく、国境を越えた各地で様々なドラマを作ってきました。現在は、カーボンファイバーの釣竿が主流となっており、釣竿作りで培ったノウハウを活かして、ゴルフシャフト、遮断かんなどの製造をしております。素材の特徴を活かして幅広い時代のニーズに応え多角的な商品製造に取り組んでおります。創業60周年を迎え、ユニフォームを一新し更なる飛躍に向け活動しており、2021年にSDGs登録し、釣竿を作るだけでなく周りの自然環境にも配慮した製品作り・環境維持活動を行っています。

2018年グッドデザイン受賞 「天龍テンカラ風来坊TF39別誂」



天竜川 河川清掃



YOUTUBEにて製品紹介 実釣動画 配信中!



フィッシングショー



<https://www.tenryu-magna.com>

